

■ タカネバラ

Rosa nipponensis

(平成20年9月18日指定)

徳島県における指定状況：絶滅危惧Ⅰ類
環境省における指定状況：該当なし

種の概略

1) 特徴

本州、四国の高山の日当たりのよいところに生える落葉低木。高さ1-1.5m、小枝は細長く水平に開き、樹皮は紅褐色を帯び、細いとげがたくさん生えるが後に脱落する。葉は奇数羽状複葉、小葉は7-9枚、長楕円形楕円形で薄く、両端とも円形のものが多い。縁に湾曲する多数の鋸歯がある。長さ2-3.5cm、幅1-1.7cm、短い小柄がある。裏面は帯白色で主脈に伏毛がある。托葉は長楕円形で中程まで葉柄に合着し、上部は耳のように広がり、縁には腺毛がある。6-7月頃、枝の末端に大きな花を一個付ける。花は径4-5cm、花弁は5個、ほとんど水平に開出する。広倒卵形で基部は楔状に狭まり、淡紅色で美しい。中央部に黄色の多数の雄しべがある。偽果は西洋梨状の楕円形、長さ15mm内外、紅色でなめらか、頭部に永存生のがく片を残す。

2) 生育環境

亜高山帯の日当たりのよい所に生育する。

県内では高い山の石灰岩地にのみ生育している。

3) 繁殖生態

種子によって繁殖する。

4) 分布

本州(東北部から中部地方)、四国に分布する。

県内の生育地は一カ所である。

生育地と生育状況

剣山の石灰岩地、石灰岩の割れ目などの根を張って生育している。かつて(1990年頃)は、生育地周辺に100株近くあり、花を付ける株も約20個体はあったと云われていたが、現在では、岩の割れ目にある小さい個体を含めても30株ほどに減少している。

絶滅要因

1) 人的被害



タカネバラ (写真提供：田淵武樹氏)

四国では剣山だけにしか生育していないという希少な植物なので、花や枝を持ち帰ったり、盗掘する人が多く、個体数は激減した。

2) 野生草食獣

ニホンジカによる食害が大きい。ニホンジカはこの植物を好み、地上部を食害する。

石灰岩の隙間から伸び出していたタカネバラは、シカの口が届かない狭い岩の隙間の根元部だけがのこされた状態で、いずれも5-15cmほどの高さで、開花する大きさにはなっていない。

3) 生育地の土壌環境

前述の通り、石灰岩の岩山なので、ニホンジカの足でも踏み崩されることはない。

保全対策

1) 人的被害

タカネバラが生育している場所は、シカの食害に備え、すでにネットで囲まれているので、ヒトもニホンジカも入れない。ネット外にあったタカネバラは、すでにヒトによる盗掘とシカによる食害により全くなくなっている。ネット内は今のところ被害は無くなっている。

2) 野生草食獣

防鹿ネットにより、タカネバラは保護されている。

3) 結果と今後の予想

ニホンジカの食害による被害が壊滅的に至る前に防鹿ネットの設置が出来たので、ネット内は次第に回復すると考えられる。

適切な保護対策の実施は、出来る限り被害の少ない時点で早急に行うのが良策である。

(森本康滋)